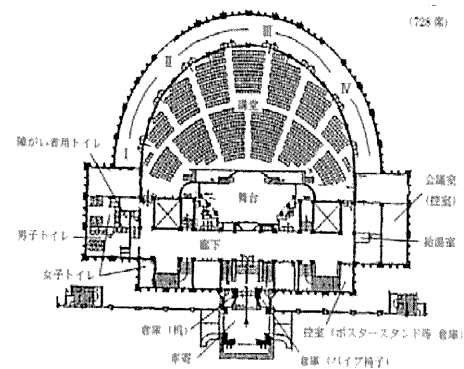
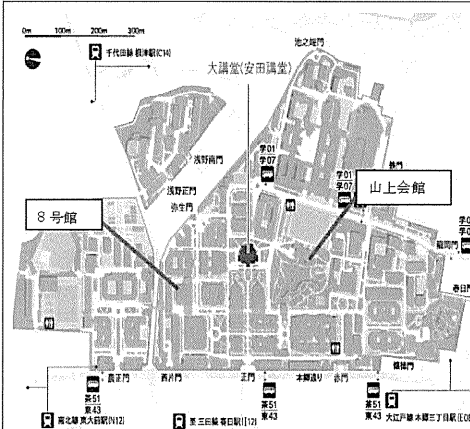


安田講堂内ポスター展示場所



【ポスター展示会場】

ポスターは本会場を囲む外廊下に展示してあります。
赤字はポスターセッション時のそれぞれのストリームの場所となります。詳細については別紙のポスタープログラムをご参照ください。



【シンポジウム会場】

本会場：東京大学本郷キャンパス 安田講堂
研究会メンバー用昼食会場：
・安田講堂控え室
・工学部8号館7階706号室と708号室

シンポジウム運営組織

主査	飯塚悦功(東京大学・大学院)	
副査	水流聡子(東京大学・大学院)、棟近雅彦(早稲田大学理工学術院)	
運営 スタッフ	<PCAPS 事務局> 加藤 省吾(東京大学・大学院) 金子 雅明(早稲田大学理工学術院) 小柴 研一(東京大学 共同研究員) 黒田 幸清(東京大学 学術支援専門職員) 佐藤 典子(東京大学 学術支援専門職員)	<協力学生> 下野 僚子(東京大学博士課程) 佐野 雅隆(早稲田大学博士課程) 李 垠燦 (東京大学修士課程) 藤井 健人(東京大学修士課程) 吉田 隆宏(東京大学修士課程) 伊藤 岳大(東京大学修士課程) 原田 美沙子(東京大学修士課程) 尾方 優花(東京大学工学部) 杉辺 瑠美子(東京大学工学部) 竹中 秀 (東京大学工学部)

問い合わせ先：
PCAPS 事務局
E-mail : Office_PCAPS@umin.ac.jp
TEL : 03-5841-7301 FAX : 03-5841-7276
本研究事業HP : <http://plaza.umin.ac.jp/~A-epath/index.html>

注意：カメラ撮影はご遠慮ください。PCAPS は各種特許申請済みです。

(資料) : PCAPS 研究会 平成 22 年度中間シンポジウム パンフレット

医療安全と質を保証する患者状態適応型パス (PCAPS) 統合化システム開発研究

医療安全と質を保証する患者状態適応型パス (PCAPS)

H22 年度 PCAPS 研究会 中間シンポジウム

PCAPS 統合化システムの活用とその可能性

— 実臨床での運用事例を踏まえて —

(H22 年度厚生労働科研 がん臨床研究 (質評価指標開発研究: 飯塚班) 中間報告含む)
厚生労働科学研究 (がん臨床研究) 推進事業 共催: 財団法人 日本対がん協会

プログラム

日時 : 2010 年 9 月 25 日 (土) 10:00~17:00 終了予定 (途中昼休憩 1 時間)

会場 : 東京大学本郷キャンパス 工学部 2 号館 2 1 3 号室

はじめに

臨床知識構造化手法 PCAPS (Patient Condition Adaptive Path System: 患者状態適応型パス) は、状態適応型介入という医療の本質を反映した臨床知識の構造モデルを提示し、その構造で現実知識コンテンツを記述し、それら知識コンテンツを関係者が利用できる条件を整え、さらに医療経営および臨床知識コンテンツの改善の場を提供する、あるべき医療社会システムを実現するためのコアツールです。

標準化・最適化された構造化臨床知識は、世に多くの知識が氾濫し、多様な知識・情報提供サービスがビジネスとして成立するなかで、豊かな安全・安心社会実現の一つの基盤として、社会が真に求めている知識といえるでしょう。

そうした社会ニーズを強く感じながら、PCAPS 研究会は壮大な構想のもとに開発研究を進めてきました。そして、PCAPS 統合化システムの中心的役割を果たす PCAPS-Administrator が実臨床で運用され始めました。PCAPS-Administrator がそのデータとして利用する多様な臨床知識コンテンツの整備も積極的に進められてきました。

本シンポジウムでは、電子コンテンツとして開発されてきた多様な PCAPS 臨床知識コンテンツと、実臨床での運用事例について、中間報告をいたします。

2010 年 9 月 25 日

PCAPS 研究会 代表 : 飯塚悦功

副代表 : 水流聡子・棟近雅彦

※PCAPS (Patient Condition Adaptive Path System : 患者状態適応型パス)

主催 : PCAPS 研究会

午前の部

司会：水流 聡子（東京大学）

10:00-

開会の挨拶：PCAPS 研究会のねらい

飯塚悦功（東京大学）

10:10-10:30

I：PCAPA統合化システム開発

- ・ 今年度中期・長期計画

水流 聡子（東京大学）

10:30-11:30

II：PCAPS-Administrator を用いた実臨床での運用試行事例

- ・ 飯塚病院(脳外科)での運用事例(オーダーリング環境：計画から実施・記録・評価、手術部との院内連携)
名取 良弘・水野 良美・佐野 美和子・渡辺 恵理子（飯塚病院）
- ・ 兵庫県立西宮病院(消化器外科)での開発(電子カルテ環境：計画系としての利用)
吉岡 慎一・藤井 直彦（兵庫県立西宮病院）
- ・ トヨタ記念病院(産婦人科)の計画(電子カルテ環境：計画から実施記録評価、NICU との院内連携・地域連携)
小口 秀紀・宮崎 のどか(トヨタ記念病院)・白石三智(日本パプテスト病院)
- ・ 訪問看護ステーションの計画(計画から実施・記録・評価まで)
佐野 袈裟美(スギメディカル株式会社)・松木 満里子(アコモケアサービス)
- ・ 大久野病院の計画(回復期病院・オーダーリング環境：計画から実施・記録、リハビリ院内連携・地域連携)
進藤 晃(大久野病院)
- ・ 石川県立高松病院での運用事例(紙カルテ環境での運用：看護部門による運用紹介)
水流 聡子(東京大学)

11:30-12:40

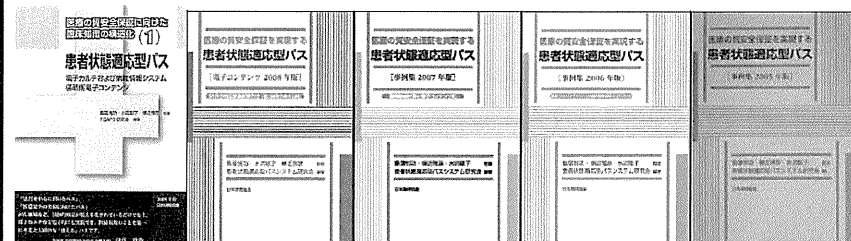
III：パネルディスカッション「がん診療プロセスの質評価モデル」

(「厚生労働科研 がん臨床研究(飯塚班)」中間成果報告)

- ・ パネルリーダー(研究代表者)：飯塚 悦功(東京大学)
- ・ パネリスト(分担研究者)：
 - ・ 水流 聡子(東京大学)
 - ・ 名取 良弘(飯塚病院)
 - ・ 新海 哲(四国がんセンター)
 - ・ 吉岡 慎一(兵庫県立西宮病院)
 - ・ 蒲生 真紀夫(みやぎ県南中核病院)
- ・ 全体討論

12:40-13:40 昼休み

飯塚悦功・水流聡子・棟近雅彦監修 患者状態適応型パスシステム研究会編著
『患者状態適応型パス—電子カルテおよび病院情報システム搭載版電子コンテンツ（医療の質安全保証に向けた臨床知識の構造化）』（日本規格協会）定価：5,670 円(税込)



午後の部

13:40-14:50

Ⅳ:PCAPS領域別報告:ポスターセッション (ラウンド形式, 1領域質疑込 10 分)

※ポスターセッション会場は、本会場の 1 階上の広場(サブウェイの前)になります。

(ストリームⅠ) 座長:飯塚 悦功(東京大学大学院)

- ・ 脳外科 勝田 俊郎(北九州市立医療センター)
- ・ 消化器外科 吉岡 慎一(兵庫県立西宮病院)
- ・ 小児感染症 箕浦 貴則(仙台医療センター)
- ・ 脳梗塞(急性期) 福田 賢治(聖マリア病院)
- ・ 脳梗塞(慢性期) 進藤 晃(大久野病院)
- ・ 慢性閉塞性肺疾患(COPD) 山路 聡子(群馬県看護協会 訪問看護ステーション)・浦西 郁哉(東京大学大学院)

(ストリームⅡ) 座長:水流 聡子(東京大学大学院)

- ・ 乳癌リンパ浮腫 吉原 依里(都立駒込病院)
- ・ 訪問看護 松木 満里子(アコモケアサービス)
- ・ 精神科 出村 一洋(石川県立高松病院)
- ・ 小児アレルギー 尾方 優花(東京大学大学院)
- ・ 腎臓内科 藤井 直彦(兵庫県立西宮病院)
- ・ 周産期 宮崎 のどか(トヨタ記念病院)・白石三智(日本パブテスト病院)

~~~~~  
休憩  
~~~~~

15:00-17:00

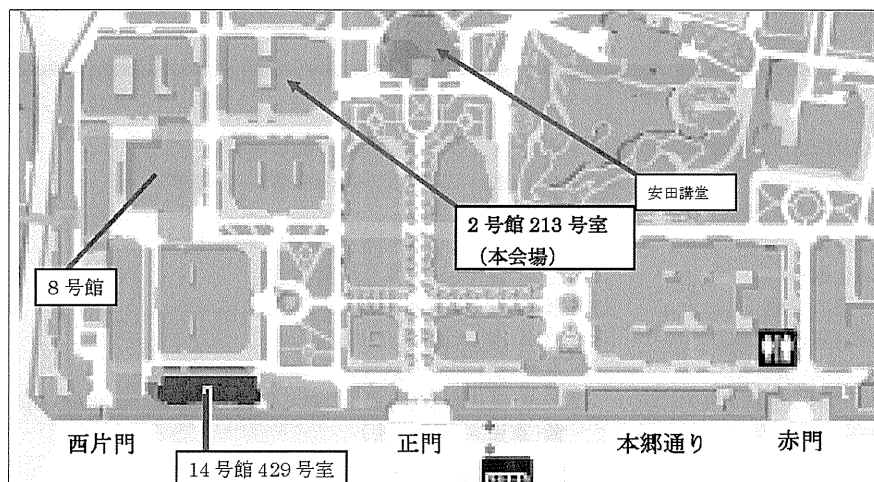
Ⅴ:PCAPS領域別報告:オーラルセッション

- ・ 脳梗塞急性期治療の標準化活動
福田 賢治(聖マリア病院)
- ・ 小児循環器学会における心疾患実態調査
梶野 浩樹(旭川医科大学病院)
- ・ 小児領域における内科系モデルの変遷
藤原 優子(慈恵医科大学病院)
- ・ PCAPS 導入による質・安全管理指標の活用性を探る
東川 貞男(石川県立高松病院)
- ・ COPD 地域連携モデル(多職種による地域連携)
茂木 孝(日本医科大学呼吸ケアクリニック)・加藤 省吾(東京大学)
- ・ 周産期および新生児管理における調査事例
宮崎 のどか・小口 秀紀(トヨタ記念病院)
- ・ 生体肝移植 Admin-Lite English Version 開発進捗の報告
山田 貴子・中田 知廣・田中紘一(神戸先端医療センター)
- ・ CKD(慢性腎不全)のフォローアップパスの開発
藤井 直彦(兵庫県立西宮病院)

17:00

Ⅵ:閉会のあいさつ

飯塚 悦功 (東京大学)



【シンポジウム会場】

本 会 場 ：東京大学本郷キャンパス工学部 2号館 213号室

ポスター会場：東京大学本郷キャンパス工学部 2号館 1階広場（本会場の1階上のサブウェイ前）

研究会メンバー用昼食会場：工学部 8号館 7階 702号室・706号室・708号室

研究会メンバー・関係者の懇親会会場：14号館 429号室

シンポジウム運営組織

代表	飯塚悦功（東京大学）	
副代表	水流聡子（東京大学）、棟近雅彦（早稲田大学理工学術院）	
運営 スタッフ	<PCAPS事務局> 加藤 省吾（東京大学） 金子 雅明（青山学院大学） 佐野 雅隆（早稲田大学） 小柴 研一（東京大学 共同研究員） 黒田 幸清（東京大学 学術支援専門職員） 佐藤 典子（東京大学 学術支援専門職員）	<学生スタッフ> 下野 僚子（東京大学博士課程） 藤井 健人（東京大学修士課程） 伊藤 岳大（東京大学修士課程） 原田 美沙子（東京大学修士課程） 浦西 郁哉（東京大学修士課程） 尾方 優花（東京大学工学部） 秋山 友毅（東京大学工学部） 末政 憲司（東京大学工学部）

問い合わせ先：

PCAPS 事務局

E-mail : Office_PCAPS@umin.ac.jp

TEL : 03-5841-7301 FAX : 03-5841-7276

本研究事業 HP : <http://plaza.umin.ac.jp/~A-epath/index.html>

注意：カメラ撮影はご遠慮ください。PCAPSは各種特許申請済みです。

(資料) : PCAPS 研修会 パンフレット

厚生労働科学研究(がん臨床研究)推進事業
主催: 質評価指標開発研究 飯塚班 共催: 財団法人日本対がん協会

PCAPS 実運用システムの紹介

ー診療プロセスの構造的可視化と改善のための質評価を目指してー

日時: 2011 年 1 月 30 日 (日) 10:30-12:30

会場: 早稲田大学理工学部 62 号館大会議室

私たちは、QMS-H モデルの開発と並行して、臨床知識の構造化ツール PCAPS(Patient Condition Adaptive Path System: 患者状態適応型パス)の開発を進めています。QMS-H が健全な医療マネジメントシステムの確立をめざしているのに対し、PCAPS はそのマネジメントシステムのコアとなる臨床に関わる知識、技術、技能の確立をめざしています。

本研修会では、医療の質・安全保証のために必須の、技術とマネジメントの両輪関係、技術の可視化・構造化・標準化ツールとしての PCAPS の基本思想について、がん診療プロセス、急性期及び回復期病院での適用事例を素材として紹介します。

2011 年 1 月 30 日

PCAPS 研究会 代表: 飯塚悦功

副代表: 水流聡子・棟近雅彦

プログラム

10:30-10:40

I: 代表あいさつ: 固有技術と管理技術 飯塚悦功 東京大学 特任教授

10:40-11:00

II: PCAPS によるがん診療プロセスに関する質評価の試み 水流聡子 東京大学 特任教授

11:00-11:30

III: 急性期病院での PCAPS 臨床マネジメント運用事例紹介 名取良弘 飯塚病院 脳神経外科部長

11:30-11:50

IV: 回復期病院での PCAPS 臨床マネジメント運用設計 進藤晃 大久野病院 院長

11:50-12:20

V: PCAPS 臨床マネジメントによる臨床運用・評価・改善に関する討論

進藤 晃 大久野病院 院長

進藤 幸雄 大久野病院 理事

福田 隆 城東中央病院 院長

香西 瑞穂 城東中央病院 看護師

黒川 美知代 武蔵野赤十字病院 病棟看護師長

斎藤 瀬香 武蔵野赤十字病院 看護師

名取 良弘 飯塚病院 ISO委員会委員長 クレデンシャル委員会委員長 部長(脳神 経外科)

福村 文雄 飯塚病院 改善推進本部長 医療安全室長

山田 清彦 前橋赤十字病院 産婦人科部長

岡 一成 幸手総合病院 副院長

松尾 祐志 幸手総合病院 内科医長

谷口 正次 医療法人同心会古賀総合病院 同心会 理事

吉原 文代 医療法人同心会古賀総合病院 副看護部長(診療情報管理室 副室長)

関塚 永一 国立病院機構埼玉病院 院長

原 彰男 国立病院機構埼玉病院 副院長

斎藤 泰紀 国立病院機構仙台医療センター 副院長

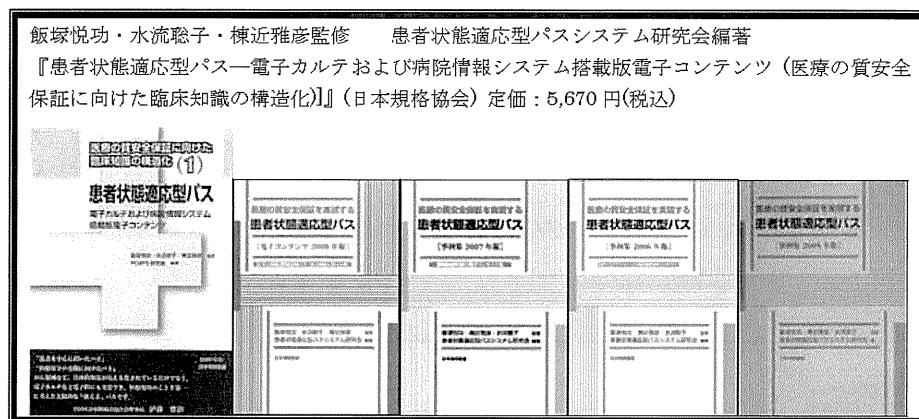
12:20-12:30

VI: PCAPS 研究会と QMS-H 研究会の今後の発展 飯塚悦功 東京大学 特任教授

12:30 終了予定

【配布資料一覧】

1. プログラム（本紙）
 2. 患者状態適応型パス事例集 2009
 3. アンケート用紙（研修会終了後ご提出ください）
 4. PCAPS がん研修会資料
 5. 中間サーバを用いた連携案概念図
- 参考資料 クリニカルパス学会 ランチョンセミナーちらし



PCAPS 運営組織

代表	飯塚悦功(東京大学)	
副代表	水流聡子(東京大学), 棟近雅彦(早稲田大学理工学術院)	
運営 スタッフ	<PCAPS 事務局> 加藤 省吾(東京大学) 小柴 研一(東京大学 共同研究員) 黒田 幸清(東京大学 学術支援専門職員) 佐藤 典子(東京大学 学術支援専門職員)	下野 僚子(東京大学博士課程) 藤井 健人(東京大学修士課程) 伊藤 岳大(東京大学修士課程) 原田 美沙子(東京大学修士課程) 浦西 郁哉(東京大学修士課程) 尾方 優花(東京大学工学部) 秋山 友毅(東京大学工学部) 末政 憲司(東京大学工学部)

問い合わせ先：

〒113-8656

東京都文京区本郷7-3-1 東京大学工学部8号館702号室

飯塚・水流研究室内 PCAPS 事務局

E-mail: Office_PCAPS@umin.ac.jp

TEL: 03-5841-7301 FAX: 03-5841-7276

本研究事業 HP: <http://plaza.umin.ac.jp/~A-epath/index.html>

(資料) : PCAPS 研究会 平成 22 年度最終成果報告シンポジウム パンフレット

医療安全と質を保証する患者状態適応型バス (PCAPS) 統合化システム開発研究

PCAPS 研究会・QMS-H 研究会合同シンポジウム

医療社会システムの確立に向けて

平成 22 年度最終成果報告

PCAPS 研究会

臨床知識の構造化と活用

プログラム

日時 : 2011 年 3 月 5 日 (土) 10:00~16:55 終了予定 (途中昼休憩 1 時間)

会場 : 東京大学本郷キャンパス 安田講堂

はじめに

医療の質・安全保証の実現をめざして、臨床プロセスの構造的可視化をすすめる PCAPS 臨床知識コンテンツの開発と活用には、医療エキスパート、研究者、医療関連組織、PCAPS-IMT コンソーシアム会員事業者、検証調査協力病院のボランティアがあります。これらの方々がやろうとしていることは、医療の質の向上であり、それを実現するシステムを社会に実装することです。

H22 年度は、実用可能レベルの電子コンテンツがいくつかの領域で完成し、これらコンテンツの実装が、病棟・病院・地域・在宅の領域で検討されました。この活動を通して、実装に必要とする導入モデルの構築が進展しました。良質な医療提供を持続的に実施するためには、業務設計・運用フロー設計が必要となります。また業務を支援する各種ツール類(患者説明文書・ワークシート・患者状態監視手段・実施記録文書など)が必要となります。それらが見え始めてきて、実際の運用をイメージできる実装のショールームが、導入した病院や地域に準備できることになりました。

臨床知識の標準化のために、学会とガイドラインの関係が整理されました。PCAPS を用いることで、学会ガイドラインの整備を支援するしくみを設計できるのではないのでしょうか。加えて、医療の質改善につながる、がん診療プロセスの質評価指標の開発と計測システムの設計に向けて、研究をすすめています。

研究メンバーは、PCAPS の社会実装によって、医療の質を享受できる社会にしたいと考えています。本シンポジウムにぜひご参加していただき、意見交換をお願いいたします。みなさまのご参加をお待ちしています。

PCAPS 研究会 代表 : 飯塚悦功

副代表 : 水流聡子・棟近雅彦

主催 : 東京大学工学系研究科 医療社会システム工学寄付講座

共催 : PCAPS 研究会, QMS-H 研究会, (社)日本品質管理学会 (JSQC) 医療の質・安全部会

後援 : 日本規格協会 (JSA), PCAPS-IMT コンソーシアム

研究助成 : 平成 22 年度厚生労働科研がん臨床研究事業 (飯塚班), 厚生労働科研第 3 次対がん総合戦略研究事業 (若尾班), 日本規格協会 (JSA) 産学連携研究助成, 平成 22 年度厚生労働科研地域医療基盤開発推進研究事業 (中山班), 厚生労働科研難治性疾患克服研究事業 (梶野班)

午前の部

司会：棟近雅彦（早稲田大学）・水流聡子（東京大学）

10:00-

開会の挨拶：PCAPS 研究会のねらい

飯塚悦功（東京大学）

10:10-10:30

I：PCAPS による臨床知識の構造化戦略と活用戦略

水流聡子（東京大学）

10:30-11:30

II：PCAPS 実用化に向けた、実臨床での運用試行事例

- ・ 急性期医療：飯塚病院（脳外科）
名取良弘（飯塚病院）
 - 手術室：飯塚病院手術部
伊藤勲・緒方博美・浦田吉広・井手洋陽・成松慧（飯塚病院）
- ・ 周産期医療：トヨタ記念病院（産婦人科）
小口秀紀・宮崎のどか（トヨタ記念病院）
- ・ 回復期医療：大久野病院
進藤晃（大久野病院）
- ・ 訪問看護
佐野けさ美（スギメディカル株式会社）

11:30-12:00

III-1：臨床知識の構造化：診療知識の共有を目指して

- ・ 腎臓内科：透析導入パスから腎不全管理パスへの拡張
藤井直彦（県立西宮病院）
- ・ 脳梗塞急性期治療における標準化活動
 - 脳梗塞治療における PCAPS 活用の意義 福田賢治（聖マリア病院）
 - 脳梗塞治療における血糖管理 佐藤雄一（聖マリア病院）
 - リハビリ 井手睦（聖マリア病院）、
加藤省吾（東京大学）

12:00-13:00 昼休み(60 分)

『医療の質安全保証に向けた臨床知識の構造化 (2)』

患者状態適応型パス「臨床知識の精緻化・一般化・実装」(日本規格協会) 定価：5,670 円(税込)

飯塚悦功・水流聡子・棟近雅彦監修 患者状態適応型パスシステム研究会編著



午後の部

13:00-14:00

Ⅲ-2:臨床知識の構造化:ポスターセッション(ラウンド形式, 1領域質疑込 10 分)

座長:

- ・ ストリームⅠ:箕浦貴則(仙台医療センター)
- ・ ストリームⅡ:勝田俊郎(北九州市立医療センター)
- ・ ストリームⅢ:福田賢治(聖マリア病院)
- ・ ストリームⅣ:吉井慎一(ひたちなか総合病院)

発表コンテンツ (カッコ内は掲示のみ) ※発表者等の詳細については別紙を参照してください。

【ストリームⅠ】	【ストリームⅡ】:	【ストリームⅢ】:	【ストリームⅣ】:
・急性下痢症(小児科)	・脳外科	・脳梗塞急性期	・乳がん
・川崎病(小児科)	・頭部がん	・脳梗塞急性期(血糖管理)	・リンパ浮腫
・新生児管理(周産期)	・手術室	・リハビリ	・腎不全
・母体管理(周産期)	・外科系看護モジュール	・回復期医療	・前立腺がん
・精神疾患	・大腸がん	・訪問看護	・小児アトピー性皮膚炎
・がん薬物療法		・慢性閉塞性肺疾患(COPD)	・下気道感染症(小児科)

休憩(10 分)

14:10-15:00

Ⅳ:他の研究プロジェクトにおける PCAPS の展開 [パネルディスカッション]

- ・ パネルリーダー: 飯塚悦功(東京大学・厚生労働省がん臨床研究飯塚班代表)
- ・ パネリスト:
 - ・ 中山健夫(京都大学・厚生労働省診療ガイドライン作成研究(中山班))
 - ・ 若尾文彦(国立がん研究センター・厚生労働科研第 3 次対がん総合戦略研究事業(若尾班))
 - ・ 梶野浩樹(旭川医科大学・小児循環器学会)

15:00-15:35

Ⅴ:構造化知識の調査・研究開発への活用

- ・ 生体肝移植チームの報告
山田貴子・中田知廣・田中紘一(神戸先端医療センター)
- ・ 慢性閉塞性肺疾患(COPD)における急性増悪時のステロイド使用
茂木孝(日本医科大学呼吸ケアクリニック)

15:40-16:50

Ⅵ:「がん診療プロセスの質評価モデルへの活用」[パネルディスカッション] (「厚生労働科研 がん臨床研究(飯塚班)」成果報告)

- ・ パネルリーダー(研究代表者): 飯塚悦功(東京大学)
- ・ パネリスト(分担研究者):
 - ・ 蒲生真紀夫(大崎市民病院)
 - ・ 名取良弘(飯塚病院)
 - ・ 青儀健二郎(四国がんセンター)
 - ・ 矢野真(武蔵野赤十字病院)
 - ・ 成田淳(長野中央病院)
 - ・ 吉井慎一(ひたちなか総合病院)
 - ・ 吉岡慎一(兵庫県立西宮病院)
 - ・ 水流聡子(東京大学)
 - ・ 棟近雅彦(早稲田大学)

16:50

Ⅶ:代表総括

飯塚悦功(東京大学)

安田講堂内ポスター展示場所

【ポスター展示会場】

ポスターは本会場を囲む外廊下に展示してあります。赤字はポスターセッション時のそれぞれのストリームの場所となります。

【シンポジウム会場】

- ◆本会場：東京大学本郷キャンパス 安田講堂
- ◆昼食会場：
 - ・研究会メンバー：工学部 8号館 702号室・706号室・708号室
 - ・パネリスト：安田講堂内の会議室（控室）
- ◆懇親会会場：工学部 14号館 429号室

シンポジウム運営組織

代表	飯塚悦功（東京大学）	
副代表	水流聡子（東京大学）、棟近雅彦（早稲田大学理工学術院）	
運営 スタッフ	＜PCAPS 事務局＞	
	加藤 省吾（東京大学）	＜学生スタッフ＞
	小柴 研一（東京大学 共同研究員）	下野 僚子（東京大学博士課程）
	黒田 幸清（東京大学 学術支援専門職員）	藤井 健人（東京大学修士課程）
	佐藤 典子（東京大学 学術支援専門職員）	伊藤 岳大（東京大学修士課程）
		原田 美沙子（東京大学修士課程）
		浦西 郁哉（東京大学修士課程）
		尾方 優花（東京大学工学部）
		秋山 友毅（東京大学工学部）
		末政 憲司（東京大学工学部）

問い合わせ先：
 PCAPS 事務局
 E-mail：Office_PCAPS@umin.ac.jp
 TEL：03-5841-7301 FAX：03-5841-7276
 本研究事業 HP：<http://plaza.umin.ac.jp/~A-epath/index.html>

注意：カメラ撮影はご遠慮ください。PCAPS は各種特許申請済みです。

(資料) : PCAPS 研究会 平成 23 年度中間シンポジウム パンフレット

医療安全と質を保証する患者状態適応型パス (PCAPS) 統合化システム開発研究

医療安全と質を保証する患者状態適応型パス (PCAPS)

H23 年度 PCAPS 研究会 中間シンポジウム

PCAPS の実装と臨床分析

(H23 年度厚生労働科研 がん臨床研究(質評価指標開発研究:飯塚班)中間報告含む)

プログラム

日時 : 2011 年 9 月 17 日 (土) 10:00~16:30 終了予定 (途中昼休憩 1 時間)

会場 : 東京大学 工学部 2 号館 213 号室

はじめに

臨床知識構造化手法 PCAPS (Patient Condition Adaptive Path System: 患者状態適応型パス) は、状態適応型介入という医療の本質を反映した臨床知識の構造モデルを提示し、その構造で現実知識コンテンツを記述し、それら知識コンテンツを関係者が利用できる条件を整え、さらに医療経営および臨床知識コンテンツの改善の場を提供する、「医療社会システム」を実現するためのコアツールです。

標準化・最適化された構造化臨床知識は、世に多くの知識が氾濫し、多様な知識・情報提供サービスがビジネスとして成立するなかで、豊かな安全・安心社会実現の基盤に組みこまれるべき、社会が真に求めている知識形態のひとつといえるのではないのでしょうか。

そうした社会ニーズを強く感じながら、PCAPS 研究会は壮大な構想のもとに開発研究を進めてきました。そして、臨床の叡智である「PCAPS 臨床知識コンテンツ」と「実臨床の場」をリンクし知識の再利用を実現する PCAPS-Administrator が臨床現場で運用され始めました。PCAPS-Administrator 上で各医療領域の PCAPS 臨床知識コンテンツを動かすことで、各医療領域毎の質保証されたチーム医療を遂行する臨床マネジメントシステムを実現できます。このような臨床の質マネジメントを地域・病院・診療所・在宅・介護施設等で実現させるため、多様な臨床知識コンテンツの整備が積極的に進められてきました。

本シンポジウムでは、現在複数の領域で進められている PCAPS 実装トライアルの状況と、PCAPS を用いた臨床分析の事例について、また PCAPS が追求している医療の質改善を行う重要なしくみである質評価構造モデルと質評価指標に関する開発研究について、中間報告をいたします。

PCAPS 研究会 代表 : 飯塚悦功

副代表 : 水流聡子・棟近雅彦

主催 : 東京大学工学系研究科 医療社会システム工学寄付講座

共催 : PCAPS 研究会、QMS-H 研究会、(社)日本品質管理学会 (JSQC) 医療の質・安全部会

後援 : 日本規格協会 (JSA)、PCAPS-IMI コンソーシアム

研究助成 : 平成 23 年度厚生労働科研がん臨床研究事業 (飯塚班)

平成 23 年度厚生労働科研第 3 次対がん総合戦略研究事業 (若尾班)

平成 23 年度厚生労働科研地域医療基盤開発推進研究事業 (中山班)

日本規格協会 (JSA) 産学連携研究助成

研究協力 : 厚生労働科研難治性疾患克服研究事業 (梶野班)

司会：水流聡子（東京大学）

午前の部

10:00-10:05

開会の挨拶：PCAPS 研究会のねらい

飯塚悦功（東京大学）

10:05-10:20

I：PCAPS による臨床知識の構造化戦略・活用戦略・事実分析に基づく改善戦略

水流聡子（東京大学）

10:20-11:10

II：PCAPS 実装トライアル報告

- ・ 急性期医療 名取良弘、水野良美、佐野美和子、渡辺恵理子（飯塚病院脳外科）、伊藤勲、緒方博美、浦田吉広、井手洋陽、成松慧（飯塚病院手術部）
- ・ 周産期医療 小口秀紀（トヨタ記念病院産婦人科）、宮崎のどか（トヨタ記念病院産婦人科）
- ・ 訪問看護 佐野けさ美（スギメディカル株式会社）、松木満里子（Accommo.Care Service 株式会社）

11:10-12:00

III：PCAPS による臨床分析①

- ・ 小児川崎病におけるプロセス分析 藤原 優子（慈恵医科大学病院）
- ・ 乳がん 青儀健二郎（四国がんセンター）
- ・ 慢性腎不全（CKD） 藤井 直彦（兵庫県立西宮病院）
- ・ リハビリ 井手睦，中島栄子（聖マリア病院）

~~~~~

12:00-13:00 昼休み(60 分)

~~~~~

午後の部

13:00-13:25

IV：PCAPS による臨床分析②

- ・ 生体肝移植チームの報告 山田貴子、中田知廣、田中結一（神戸先端医療センター）
- ・ 慢性閉塞性肺疾患（COPD）における急性増悪時 茂木 孝（日本医科大学呼吸ケアクリニック）
堀江健夫（前橋赤十字病院）

13:25-14:35

V：「がん診療プロセスの質評価指標開発研究」[パネルディスカッション]

（「厚生労働科研 がん臨床研究（飯塚班）」成果報告）

- ・ パネルリーダー（研究代表者）：飯塚悦功（東京大学）
- ・ パネリスト（分担研究者）：
 - ・ 矢野真（武蔵野赤十字病院）
 - ・ 名取良弘（飯塚病院）
 - ・ 青儀健二郎（四国がんセンター）
 - ・ 吉井慎一（ひたちなか総合病院）
 - ・ 吉岡慎一（兵庫県立西宮病院）
 - ・ 新海哲（四国がんセンター）
 - ・ 水流聡子（東京大学）
 - ・ 棟近雅彦（早稲田大学）

~~~~~

休憩(10 分)

~~~~~

14:45-16:25

VI:臨床知識の構造化:ポスターセッション(ラウンド形式, 1領域質疑込 10 分, 途中で休憩 10 分)

※ポスターセッション会場は、会場を出た廊下になります。座長の方・発表者は開始 10 分前にはお集まりください。

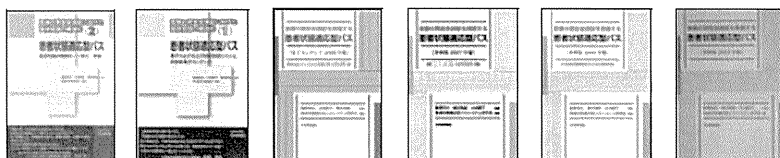
ストリーム I	ストリーム II
① 座長:名取 良弘(飯塚病院) ・術中介入ロジック 浦田 吉広(飯塚病院) ・精神科 中西 清晃(石川県立高松病院) ・PCAPS-Administrator 紹介 森屋 功一・万永 正信(京セラコミュニケーションシステム) ~~~~~ 休憩&議論(10 分) ~~~~~ ② 座長:矢野 真(武蔵野赤十字病院) ・看護思考ナビコンテンツ 輪湖 史子(看護協会)・渡邊千登世(北野病院) ・訪問看護 山崎 潤子(緑ヶ丘訪問看護ステーション) ・慢性閉塞性肺疾患(COPD)における訪問看護 浦西 郁哉(東京大学大学院) ・回復期における実装に向けたコンテンツ整備 進藤 晃(大久野病院) ~~~~~ 議論(10 分) ~~~~~	① 座長:吉井 慎一(ひたちなか総合病院) ・腎臓内科 藤井 直彦(兵庫県立西宮病院) ・リハビリ 前田 亮介・江頭 陽子・大塚 渉(聖マリア病院) ・乳がん 青儀 健二郎(四国がんセンター) ・乳癌リンパ浮腫 河本 美由紀(ナグモクリニック福岡) ~~~~~ 休憩&議論(10 分) ~~~~~ ② 座長:小口 秀紀(トヨタ記念病院) ・周産期 宮崎 のどか(トヨタ記念病院) ・大腸がん 吉岡 慎一(兵庫県立西宮病院) ・PCAPS-Administrator 紹介 森屋 功一・万永 正信(京セラコミュニケーションシステム) ~~~~~ 議論(10 分) ~~~~~

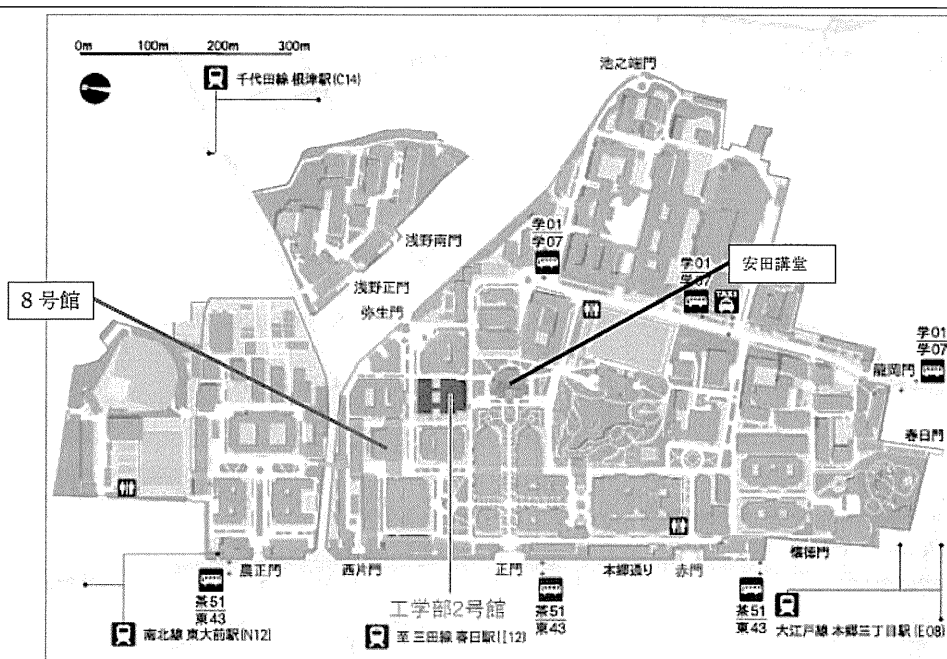
16:25

VI:代表総括

飯塚悦功(東京大学)

『医療の質安全保証に向けた臨床知識の構造化 (2)』
 患者状態適応型パス【臨床知識の精緻化・一般化・実装】(日本規格協会) 定価: 5,670 円(税込)
 飯塚悦功・水流聡子・棟近雅彦監修 患者状態適応型パスシステム研究会編著





【シンポジウム会場】

本会場：東京大学本郷キャンパス工学部2号館213号室

ポスター会場：東京大学本郷キャンパス工学部2号館213号室の廊下

研究会メンバー用昼食会場：工学部8号館7階 702号室・706号室・708号室

研究会メンバー・関係者用懇親会会場：フォーレスト本郷内ルヴェゾンヴェール（東京大学構外にあります）

シンポジウム運営組織

代表	飯塚悦功（東京大学）	
副代表	水流聡子（東京大学），棟近雅彦（早稲田大学理工学術院）	
運営 スタッフ	<PCAPS 事務局> 加藤 省吾（東京大学） 下野 僚子（東京大学） 小柴 研一（東京大学 共同研究員） 黒田 幸清（東京大学 学術支援専門職員） 佐藤 典子（東京大学 学術支援専門職員）	<学生スタッフ> 浦西 郁哉（東京大学修士課程） 阿部 徹（東京大学修士課程） 末政 憲司（東京大学修士課程） 谷中 瞳（東京大学修士課程） 伊藤 怜史（東京大学工学部） 岡元 大輔（東京大学工学部） 松岡 賢（東京大学工学部）

問い合わせ先：

PCAPS 事務局

E-mail：Office_PCAPS@umin.ac.jp

TEL：03-5841-7301 FAX：03-5841-7276

本研究事業 HP：<http://plaza.umin.ac.jp/~A-epath/index.html>

注意：カメラ撮影はご遠慮ください。PCAPS は各種特許申請済みです。

(資料) : PCAPS 研究会 平成 23 年度最終成果報告シンポジウム パンフレット

医療安全と質を保証する患者状態適応型パス (PCAPS) 統合化システム開発研究

PCAPS 研究会・QMS-H 研究会合同シンポジウム

医療社会システムの確立に向けて

平成 23 年度最終成果報告

PCAPS 研究会

臨床知識の構造化と活用

プログラム

日時 : 2012 年 3 月 10 日 (土) 10:00~17:30 終了予定 (途中昼休憩 1 時間)

会場 : 東京大学 安田講堂

医療の質・安全保証の実現をめざして、臨床プロセスの構造的可視化をすすめる PCAPS 臨床知識コンテンツの開発と活用には、医療エキスパート、研究者、医療関連組織、PCAPS-IMT コンソーシアム会員事業者、検証調査協力病院のボランティア協力があります。これらの方々が行っていることは、医療の質の向上であり、それを実現するシステムを社会に実装することです。

H23 年度は、これまで開発されてきたコンテンツを用いて、PCAPS 一般化臨床プロセスモデルを開発しました。この一般化臨床プロセスモデルの全体・部分を活用した PCAPS コンテンツ開発が始まり、これまでに比べ、短期間で精緻なコンテンツ開発をすることができるようになりました。現在、コンテンツ増産プロジェクトでは、導入希望病院で使用するコンテンツを優先して開発しています。病院全体で PCAPS が実装された状態を実現することができそうです。

臨床知識の標準化のために、学会とガイドラインの関係が整理されました。PCAPS を用いることで、学会ガイドラインの整備を支援するしくみを設計するモデルを開発しました。このモデルに従って、いくつかの学会にはたらきかける動きを始めています。加えて、医療の質改善につながる、がん診療プロセスの質評価指標の開発と計測システムの研究がすすみ、H23 年度は病院の診療プロセスの質評価と改善をすすめることができるツールを開発中です。

研究メンバーは、PCAPS の社会実装によって、医療の質を享受できる社会にしたいと考えています。本シンポジウムにぜひご参加いただき、意見交換をお願いいたします。みなさまのご参加をお待ちしています。

PCAPS 研究会 代表 : 飯塚悦功

副代表 : 水流聡子・棟近雅彦

主催 : 東京大学工学系研究科 医療社会システム工学寄付講座

共催 : PCAPS 研究会, QMS-H 研究会, (社)日本品質管理学会 (JSQC) 医療の質・安全部会

後援 : PCAPS-IMT コンソーシアム

研究助成 : 平成 23 年度厚生労働科研がん臨床研究事業 (飯塚班)

平成 23 年度厚生労働科研第 3 次対がん総合戦略研究事業 (若尾班)

平成 23 年度厚生労働科研地域医療基盤開発推進研究事業 (中山班)

研究協力 : 厚生労働科研難治性疾患克服研究事業 (梶野班)

司会：棟近雅彦（早稲田大学）・水流聡子（東京大学）

午前の部

10:00-10:05

開会の挨拶：PCAPS 研究会のねらい 飯塚 悦功（東京大学）

10:05-10:20

I：PCAPS：臨床プロセスモデル・臨床運用モデル・臨床分析モデル
水流 聡子（東京大学）

10:20-11:20

II：PCAPS 実用化に向けた実装トライアル

- ・「PCAPS Administrator 実装トライアル報告（周産期医療 母体管理）」
小口秀紀（トヨタ記念病院産婦人科）
- ・「PCAPS Administrator 実装トライアル報告（周産期医療 新生児管理）」
宮崎のどか（トヨタ記念病院産婦人科）
- ・「訪問看護ステーションにおける PCAPS システム実装に向けて」
佐野けさ美（スギメディカル株式会社）
- ・「生体肝移植チームの報告」
中田知廣（神戸先端医療センター）、山田貴子（川崎医科大学）、田中紘一（神戸先端医療センター）
- ・「脳神経外科領域での PCAPS 実装 ー病棟と手術室の連携を中心にー」
名取良弘（飯塚病院脳外科）、成松慧（飯塚病院手術部）

11:20-12:20

III-1：PCAPS による臨床分析事例

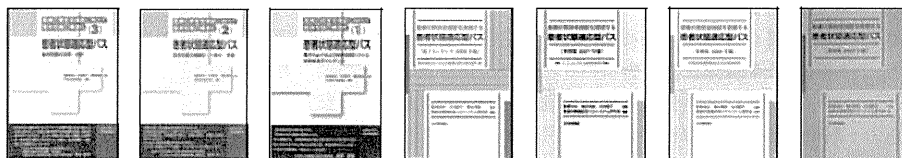
- ・「小児科領域における 2 年間の臨床分析を振り返って～その限界と展望～」
本木隆規（葛飾医療センター）
- ・「乳がんの臨床プロセスチャートと検証調査結果解説」
青儀健二郎（四国がんセンター）
- ・「腎臓内科の臨床プロセスチャートと検証調査結果解説」
藤井直彦（兵庫県立西宮病院）
- ・「リンパ浮腫の臨床プロセスチャートと検証調査結果解説」
北村 薫（ナグモクリニック福岡）

12:20-13:20 昼休み(60 分)

『医療の質安全保証に向けた臨床知識の構造化 (3)』

患者状態適応型パス【臨床知識の精緻化・一般化・実装】（日本規格協会） 定価：5,880 円(税込)

飯塚悦功・水流聡子・棟近雅彦監修 患者状態適応型パスシステム研究会編著



午後の部

13:20-13:50

Ⅲ-2:PCAPS による臨床分析事例

- ・ 脳血管障害後急性期のリハビリ介入:井手睦、中島栄子(聖マリア病院)
- ・ COPD 増悪時の介入内容調査:茂木孝(日本医科大学病院呼吸ケアクリニック)、堀江健夫(前橋赤十字病院)

13:50-14:50

Ⅳ: パネルディスカッション:「他プロジェクトにおける PCAPS の展開」

- ・ パネルリーダー: 飯塚悦功(東京大学・厚生労働省がん臨床研究飯塚班代表)
- ・ パネリスト:
 - ・ 中山健夫(京都大学・厚生労働省診療ガイドライン作成研究(中山班))
 - ・ 若尾文彦(国立がん研究センター・厚生労働科研第3次対がん総合戦略研究事業(若尾班))
 - ・ 梶野浩樹(旭川医科大学・小児循環器学会)

14:50-15:50

Ⅴ: パネルディスカッション:「がん診療プロセスの質評価 (「厚生労働科研 がん臨床研究(飯塚班)」成果報告)

- ・ パネルリーダー(研究代表者): 飯塚 悦功(東京大学)
- ・ パネリスト(分担研究者):
 - ・ 矢野 真(武蔵野赤十字病院)
 - ・ 吉岡 慎一(兵庫県立西宮病院)
 - ・ 名取 良弘(飯塚病院)
 - ・ 蒲生 真紀夫(大崎市民病院)
 - ・ 青儀 健二郎(四国がんセンター)
 - ・ 水流 聡子(東京大学)
 - ・ 吉井 慎一(ひたちなか総合病院)
 - ・ 棟近 雅彦(早稲田大学)

休憩(10分)

16:00-17:10

Ⅵ:ポスターセッション:

(ラウンド形式, 1領域質疑込 10分)

※ポスターセッション会場は、メイン会場後方の廊下になります。



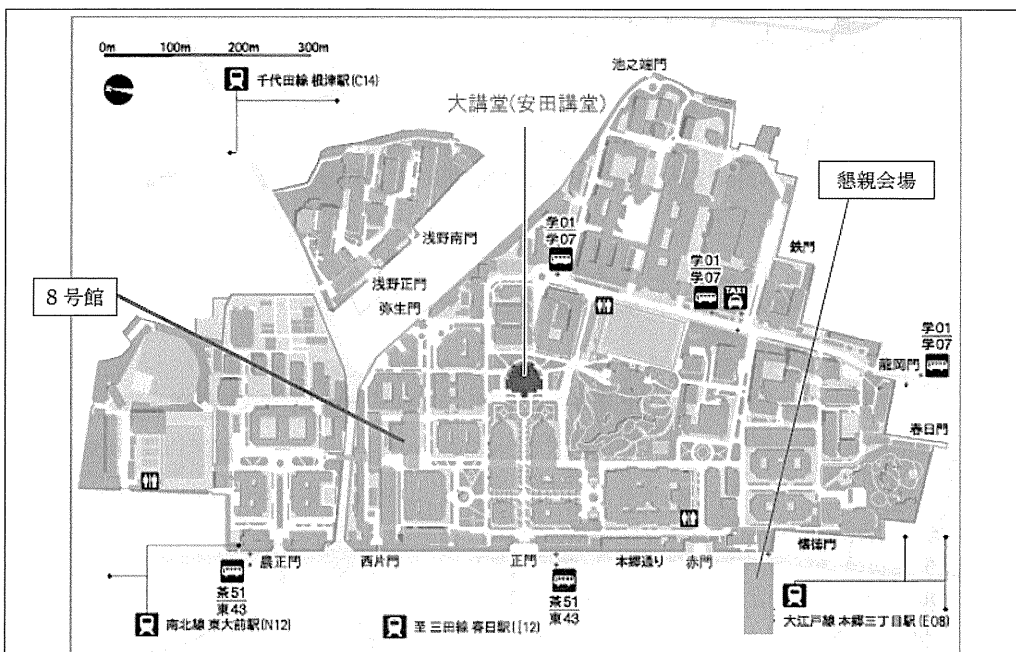
発表コンテンツ領域 ※発表者等の詳細については別紙を参照してください。

【ストリームⅠ】	【ストリームⅡ】:	【ストリームⅢ】:
座長:名取良弘(飯塚病院)	座長:吉井慎一(ひたちなか総合病院)	座長:矢野真(武蔵野赤十字病院)
・がん薬物療法	・乳がん	・小児科
・手術	・リンパ浮腫	・慢性閉塞性肺疾患(COPD)[吸入指導]
・消化器外科	・周産期	・慢性閉塞性肺疾患(COPD)[訪問看護]
・リハビリ(言語療法)	・腎臓内科	・訪問看護
・リハビリ(理学療法・作業療法)	・精神科	・回復期医療
・慢性閉塞性肺疾患(COPD)[リハビリ]	・看護思考プロセス(一般)	・栄養食事

17:10

Ⅵ:閉会の挨拶:代表総括

飯塚悦功(東京大学)



【シンポジウム会場】

会 場 : 東京大学本郷キャンパス安田講堂

研究会メンバー用昼食会場: 工学部 8 号館 7 階 702 号室・706 号室・708 号室・722 号室

※がん質評価のパネリストの方は安田講堂内の控室

懇親会会場: 『Bon Art』 (Tel: 03-3812-3212)

シンポジウム運営組織

代表	飯塚悦功 (東京大学)	
副代表	水流聡子 (東京大学), 棟近雅彦 (早稲田大学)	
運営 スタッフ	<PCAPS 事務局>	<学生スタッフ>
	加藤 省吾 (東京大学) 下野 僚子 (東京大学) 小柴 研一 (東京大学) 黒田 幸清 (東京大学) 佐藤 典子 (東京大学)	浦西 郁哉 (東京大学) 阿部 徹 (東京大学) 末政 憲司 (東京大学) 谷中 瞳 (東京大学) 伊藤 伶史 (東京大学) 岡元 大輔 (東京大学) 松岡 賢 (東京大学)

問い合わせ先:

PCAPS 事務局

E-mail: Office_PCAPS@umin.ac.jp

TEL: 03-5841-7301 FAX: 03-5841-7276

本研究事業 HP: <http://plaza.umin.ac.jp/~A-epath/index.html>

注意: カメラ撮影はご遠慮ください。PCAPS は各種特許申請済みです。

IV. 研究成果の刊行に関する一覧